



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



まずは小さな思いやりを行動にうつすことから

～ 「人権週間」に合わせた取組を進めています ～

本校は毎週火曜日に「人権啓発ラジオ番組『明日への伝言板』」の録音CDを全校放送し、感想の交流をしています。12月7日は「人権週間」に合わせて『明日への伝言板』紙芝居というDVDを視聴しました。タイトルは「誰もが住みよい社会を目指して」です。感想の一部は掲示したり、全校放送で紹介したりしています。



人権意識の高まっている姿として、単なる「知識理解」、例えば「いじめはいけない」と知って理解するだけでなく、そうした場面を見たらやめさせようとする「実践力」が身に付いているかどうか重要です。先日、運動場のイチオウの枯



葉を片付けている5、6年生の姿をみて、低学年の子どもたちが自主的に手伝うことができました。「大変そうだな」で終わらせない姿は、とても素晴らしいと感じました。子どもたちも住みよい社会をつくる一員です。

芝生の運動場に 子どもたちが戻ってきました

心配されていた冬芝も、順調に成長しています。先週から運動場の使用ができるようになりました。



先生も一生懸命勉強しています

教室で子どもたちが学習に励むのと同様に、教員も継続的に学ぶ（研修する）ことが必要です。よりわかりやすい指導法や指導資料等を追求しなければいけませんし、指導する内容が変わっていくこともあるからです。そこで、日常的に互いの授業を公開しあって協議する授業研究を行っています。

また本年度は、オンライン授業という新たな指導スタイルが導入されました。そこで、タブレット端末の設定や授業の進め方などを、オンラインで研修しました。教育委員会主催の研修で、市内のすべての教員が対象だったからです。

そのほか、教育センターなどの研修施設に行き他校の教員とともに研修することや、放課後に本校の教員が集まって研修することもあります。人権研修やアレルギー対応研修のように講話や説明を聞いて学ぶものだけでなく、体育実技や描画指導など実際に体験しながら研修するものもあります。

子どもたちの学びを止めないために、教員も学びを止めることはありません。



地域での学習を 着実に

コロナ禍で制限がかかっていた校外行事が、10月以降徐々に実施できるようになりました。これまで、本校で毎年取り組んできた地域での見学活動や交流活動も、時期は少しずれましたが再開しています。

3年生は、総合的な学習の時間に、公園の花植え活動や芋掘りを、地域の方々と一緒に行いました。また、2年生は、生活科の「まちたんけん」の一環として、市民センターを見学しました。

学校での学びと地域での体験をつなげていくことはとても重要です。状況を見ながら、「地域とともにある学校」として教育課程に沿った地域学習を実施したいと考えています。

